



## 海外短期実習報告(マレーシア) および国内事前研修報告(鹿児島県・菱刈鉱山)

グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教  
渡邊 智明

2014年2月10日から2月15日にかけて、マレーシア海外短期実習を行いました。これは、グリーンアジアのコースワークの一環で、前年度のシンガポール、タイと同様、現地の大学との交流、現地日系企業の訪問を実施しました。今回は、第1期コース生の6名と第2期コース生の11名および教員、スタッフ14名の計31名が参加しました。

これに先立って、1月29日、事前研修として、住友金属鉱山株式会社・菱刈鉱山を訪問しました。現在操業している、日本唯一の金鉱山である菱刈鉱山の具体的な業務内容について鉱山側の映像資料を見せて頂き、担当者の方から説明を伺いました。特に印象に残ったのは、鉱山側の環境対応であり、周辺住民との関係の構築についてです。菱刈鉱山の周辺は、水田が点在する農村地帯です。そのため、特に金鉱脈中にある温泉水の排水、処理など環境に対する細かな配慮がなされていることが理解できました。また、この後、バスから鉱山の外周を見学し、実際の企業活動の雰囲気に触れることができました。

2月10日からの海外研修では、マレーシア国立大学およびマレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院(MJIIT)を訪問し、Malaysian SH Electronics 社の見学を行いました。

2月11日、マレーシア国立大学を訪問しました。ここでは、太陽エネルギー研究所(SERI)について説明を伺い、さらに大学内の諸施設を見て回りました。キャンパスに附属する実験区域では、自然の通気を利用したモデル家屋などを見学しました。

2月12日は、マレーシア工科大学、マレーシア日本国際工科院(MJIIT)を訪問しました。マレーシア日本国際工科院は、2010年に設立されたもので、講座制(i-Kohza)など日本式の工学教育にならった教育課程を設置しています。本研修では、MJIITとGAのジョイント・ワークショップを開催しました。GAからは、第1期コース生全員(正木君、松本君、儀間君、佐藤君、赤嶺君、花田君)が各セッションにおいて報告を行いました。またMJIITの学生もそれぞれのセッションで発表を行いました。専門も異なり、研究内容を理解するのは容易ではありませんでしたが、同じ世代のアジアの学生が研究から刺激を受ける

点も多かったと思います。

2月13日には、住友金属鉱山グループのMalaysian SH Electronics 社の工場を訪問しました。この工場は、1989年に設立されたもので、従業員は約450名、主にリードフレームの製造を行っています。工場訪問では、最初に秋山社長はじめ担当者の方から、Malaysian SH Electronics社の概要および工場における製造過程について説明して頂きました。さらに質疑応答の時間を設けて頂き、当プログラムの学生が質問を提起したのに対して、丁寧にお答え頂きました。その後、当工場の食堂にて、昼休みの貴重な時間を割いて頂き、社員の方々とお話ししながら昼食を取りました。昼食後は、作業服に着替え、少人数単位のグループに分かれて、工場内の製造工程の見学を行いました。製造過程の見学では、ガイド役の担当者の方が各工程で立ち止まって解説して頂いただけでなく、学生が逐次行う質問にも答えて頂きました。また、工場内の製造過程だけでなく水処理など環境対応の工程についても見せて頂きました。

これら一連の行程の中では、マレーシア文化に触れる機会もありました。ツイン・タワーのような高層建築が立ち並び、モータリゼーションが進むクアラルンプールという都市の成長を目の当たりにしました。また、マレーシアでは、イスラム教徒の方が多いので、それに関連した建物や装飾も多く見られましたが、研修中にはマレーシアでは珍しいヒンドゥ教の寺院である「バトゥ洞窟」を見る機会もありました。

この海外研修の中では、特にMJIITにおける研究発表などで、GA第1期生の大きく成長した姿を見ることができました。また、新たに加わった第2期生が各訪問先で積極的に質問していたことも印象的でした。

最後になりましたが、今回の研修に御協力頂きました、住友金属鉱山株式会社、菱刈鉱山およびMalaysian SH Electronics社の皆様、マレーシア国立大学およびMJIITの関係者の方々に厚く御礼申し上げます。有難うございました。

